

★ケイ酸の効果

- ・受光態勢が良くなり登熟を高めます。
- ・根の機能を高め、根腐れ防止や吸水力等を高めめます。
- ・高温時、葉面温度の上昇を抑え光合成能力の低下を防止します。
- ・茎葉が丈夫になり病害虫に対する抵抗力が強まります。

【この時期の管理ポイント】

- 中干し後は、間断灌水や飽水管理により、根の健全な生育を促し丈夫な稲づくりを目指しましょう！
- 登熟を高めるため、ケイ酸質資材を積極的に施しましょう！
- 穂肥は生育診断により、適期に施用しましょう。全量基肥施肥（一発施肥）でも、葉色が低下した場合は追肥しましょう。
- 極早生や早生品種は、1回目の穂肥時期を迎えるので、適期に穂肥を施用しましょう。
- 近年、カメムシ類による斑点米の発生が増加傾向にあり、コシヒカリでも発生している状況です。本年度の水稲病害虫抽出調査でも斑点米カメムシ類が平年並に確認されています。まずは畦畔・農道の草刈りを徹底し生息数を減らしましょう！

1 6月20日現在の水稻生育状況

- (1) 田植え後の低温、深植えや深水管理、5月16日、17日の強風の影響により、生育の進みは遅れていましたが、6月に入り気温が高温で推移していることにより、茎数は急増しています。
- (2) 6月20日現在、コシヒカリの生育状況（ほ場間差大きい）
- | | | | | |
|-------|-------|-------|----------|-------|
| 目標値比較 | 草丈：長い | 茎数：多い | 葉数の進み：早い | 葉色：濃い |
| 平年値比較 | 草丈：並 | 茎数：並 | 葉数の進み：並 | 葉色：並 |

表1 阿賀野市定点調査ほ水稻生育状況（6月20日現在）

品種名	地域名		田植日	草丈(cm)			茎数(本/m ²)			葉数(L)			葉色(SPAD)		
				本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	差	本年値	前年値	差
コシヒカリ	水原	山口	5/21	31	35	89	251	286	88	8.4	7.8	0.6	37.1	41.6	-4.5
	京ヶ瀬	京ヶ島	5/4	42	47	89	470	476	99	9.1	9.7	-0.6	40.2	42.1	-1.9
	安田	嶋瀬	5/3	47	43	109	533	431	124	9.5	8.9	0.6	41.7	41.6	0.1
	笹神	七浦	5/3	49	46	107	370	381	97	9.2	9.0	0.2	41.8	40.5	1.3
	笹神	沖	5/3	45	36	125	479	340	141	8.9	8.7	0.2	38.6	35.9	2.7
	平均			5/6	43	41	103	421	383	110	9.0	8.8	0.2	39.9	40.3
こしいぶき	水原	中湯	5/6	44	47	94	696	489	142	9.7	9.4	0.3	43.5	44.6	-1.1
	京ヶ瀬	曾郷	5/3	45	-	-	634	-	-	9.2	-	-	42.2	-	-
	安田	籠田	5/5	41	39	105	612	353	173	9.2	9.1	0.1	41.8	42.8	-1.0
	平均			5/4	43	44	98	647	411	157	9.4	9.4	0.0	42.5	43.5

2 中干し後～穂肥までの管理（溝の確認・飽水管理・ケイ酸質資材の積極的な施用）

- 6月22日発表の北陸地方の1ヶ月予報では、平均気温は高く、日照時間、降水量はほぼ平年並の見込み。特に期間の前半は、かなり高くなる見込み。
- 長雨や高温、ダシ風など気象変動に負けない技術対策が必須となっていますので、下記の対策を参考に実践し、気象変動に負けない稲づくりを徹底しましょう。
- (1) 切った溝の手直し、連結を確認しましょう
- ・迅速な水の供給と排水、渇水時の効率的な水利用を図るため、切った溝の手直しやタテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認しましょう。
 - ・中干し後は、間断灌水や飽水管理（浅水で湛水→足あとに水が残っているくらいまで減水→再び浅水湛水）を継続しましょう。
 - ・ダシ風が予想される場合は地域間で協力し合い、水利用が集中しないよう早めに対応しましょう。
- (2) ケイ酸質資材の積極追肥で登熟向上を図りましょう。
- ・稲は、出穂40日前頃から出穂期にかけて、ケイ酸を最も多く吸収します。出穂40～35日前のケイ酸追肥は丈夫な稲づくりとともに登熟向上に効果的です、積極的に施用しましょう。

表2 主なケイ酸質資材の施用例

資材名	施用時期	施用量(kg/10a)
けい酸加里 [®] ミア34	出穂35～40日前	20～40
マルチサポート2号	出穂40日前	20～40
ミネラル三味	出穂20～40日前	15～30

3 穂肥施用のポイント

6月20日現在の生育による水稻の出穂期は、平年に比べて3日程度早くなる見込み

表3 出穂予想と穂肥の施用量・時期（分施肥体系）のめやす

品種名	幼穂形成期	出穂期	分施肥の場合の穂肥窒素量合計(kg/10a)	穂肥時期	
				1回目	2回目
ゆきん子舞	6/29	7/21	5～6	6/26～6/28 (-25～-23)	7/7 (-14)
つきあかり	6/29	7/21	5～6	6/28～6/30 (-25～-23)	7/9 (-14)
こしいぶき	6/30	7/23	2～3	6/30 (-23)	7/9 (-14)
コシヒカリ	7/10	8/2	1～3	7/15～7/18 (-18～-15)	7/23 (-10)
新之助	7/17	8/9	1～3	7/19～7/22 (-21～-18)	7/28～7/30 (-12～-10)
五百万石	6/27	7/19	1～2	6/29 (-20)	7/7 (-12)
わたぼうし	6/28	7/20	2～3	6/28～6/30 (-22～-20)	7/8～7/10 (-12～-10)
こがねもち	7/4	7/27	1～3	7/9～7/12 (-18～-15)	7/17 (-10)

※幼穂形成期：幼穂長1mm以上の穂が全体の80%以上を占めた日
 ※穂肥時期下段（ ）は出穂前日数
 ※コシヒカリと新之助、こがねもちは5月10日頃移植、その他品種は連年移植を想定し予想したものです。
 田植え日やその他環境条件により、出穂期は前後します。

- (1) 出穂期は、地域やほ場、田植え時期、生育期間の気象等により異なるとともに、今後の気象等により変動します。穂肥作業の「めやす」としてください。
- (2) 穂肥の施用に当たっては、**必ず生育診断**を行きましょう。
- (3) 前年のような高温気象が予想されているため、**分施では3回目の穂肥、全量基肥では追肥の準備**をおきましょう。
- (4) 極早生や早生品種は、**間もなく1回目の穂肥時期を迎えるので、生育診断を必ず行い、適期に穂肥を施用**しましょう。
- (5) 穂肥に使用する肥料の種類や施肥体系による使用時期や施用量に注意しましょう。（下表）

表4 肥料の種類及び施肥体系別穂肥施用のめやす（コシヒカリ）

施肥体系	肥料の種類	出穂前日数と施用時期					
		30日前	25日前	18～15日前	10日前	6日前	3日前
分施	化学肥料	-	-	1回目	2回目		3回目 ★葉色（SPAD値）31以下の場合のみN1.0kg
	有機質肥料						
	有機由来N：50%	-	1回目	2回目			3回目 ★出穂期6日前の葉色（SPAD値）33以下の場合のみN1.0kg
	有機由来N：100%	1回目		2回目			3回目 ★出穂期6日前の葉色（SPAD値）33以下の場合のみN1.0kg
全量基肥	化学肥料						追肥 ★出穂期の葉色（SPAD値）32～33以下と予想される場合のみN1.0kg

4 中干し以降の水管理 ～間断灌水から飽水管理へ～

- (1) 中干し終了後は、うわ根の発生促進や根の健全化及び地耐力の維持のため、浅水の間断灌水を実施し、徐々に飽水管理へ移行しましょう。
- (2) 急激な湛水や高温時の長期間の湛水は根の酸素不足による根腐れや、下位葉の枯れ上りを生じさせるので注意しましょう。
- (3) 幼穂形成期以降は、ほ場を乾かさないうち注意しながら、飽水管理（水がなくなったらかん水を繰り返す方法）や湛水管理を行いましょう。
- (4) 異常高温、フエーン時は速やかに湛水し障害の発生防止に努めましょう。

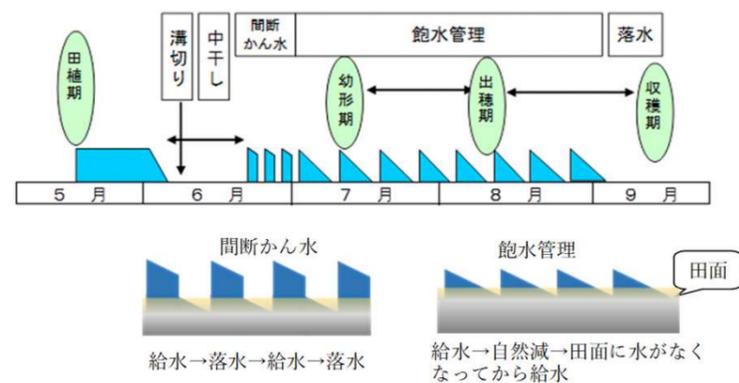


図 水管理のイメージ

5 カメムシ類による斑点米発生防止対策の徹底

(1) 雑草対策の徹底

○ 畦畔・水田内のイネ科雑草（下図）に注意！

・畦畔にイネ科雑草があると、斑点米カメムシ類が産卵し増殖してしまうので、イネ雑草が結実しない間隔で草刈りを行い、生息場所を減らしましょう。

・水田内の出穂したホタルイ・ヒエは、カメムシ類の繁殖場所になるので、早めに除去しておきましょう。

この雑草に注意！

畦



ナギナタガヤ



スズメノカタビラ



メシバ



スズメノテッポウ

水田内



ヒエ



ホタルイ

農作業中の熱中症による死亡事故は、8割以上が7～8月に発生しています。予防のポイントを確認し、安全に作業を行いましょう！

熱中症予防のポイント

1



高温時の作業は避ける

2



単独作業は避ける

3



こまめな休憩と水分補給

4



熱中症対策アイテム
の活用

(2) 追加防除の実施

- 共同防除より出穂が10日以上早い極早生・早生品種は、共同防除前に個人防除を検討しましょう。
- 液剤や粒剤など剤型にあった適期に防除を行いましょう。
- 薬剤散布時には畦畔の雑草の草刈りを行っておくことで防除効果が高まります。